



ひろば



令和4年2月28日 発行

子どもたちが育てた「つるござくら」

住用小はこれからも挑戦し続けます

校長 久永 浩幸

2月は、リュウキュウアユを水槽で飼ったり、椎茸の駒打ちをしたりと、これまでやっていないことについていろいろ挑戦してみました。やってみると、案外うまくいくこともあれば、思い通りにいかないこともあります。結局、やってみなければ結果なんて分からないものです。先生も子どもも日々勉強中です。

結果が全てか

さて、2月は北京オリンピックで日本中が盛り上がりました。連日、選手の方々がメダル獲得のために限界に挑んでいる姿がテレビで映し出され、皆さんも手に汗握りながら応援されていたのではないかと思います。メダルを獲得した選手たちは、ニュースで取り上げられ、その偉業が褒め称えられています。4年間メダル獲得を目指し苦しい練習に耐えながら頑張ってきたのですから、当然のことと言えるでしょう。しかしながら、どの競技も表彰台に立てるのはわずか3人（チーム）です。では、もし結果が全てであるならば、メダルに届かなかった他の選手たちの4年間はどのように捉えればよいのでしょうか。

2人の4位の選手の選択・・・「表彰台には届かなかったが、人々の心に届いた」

国の代表になるだけでも大変険しい道です。さらに、オリンピックは4年に一度しかない一発勝負の舞台です。そんなぎりぎりの場面で人はどんな選択をするのでしょうか。そして、人はその選択による結果をどう受け止めるのでしょうか。ここでは、今回のオリンピックで、個人的に印象に残った2人の選手の選択を取り上げてみたいと思います。

1人目は、フィギュアの羽生選手です。彼は公言していたとおり、フリーの冒頭で4回転半ジャンプに挑戦することを選択し、結果、おしくも転倒して4位となりました。もし、誰も成功していないこの技に挑戦していなければ、今大会もメダル獲得だけは可能だったかもしれません。滑走後のインタビューでは、「正直、これ以上ないくらい頑張ったと思います。まあ、**報われない努力**だったかもしれないですけど、**でも・・・**。」と声を詰まらせながら答えました。確かに



表彰台には届きませんでした。しかし、彼の4年間とは一体どれほどのものだったのかと想像し、彼の言葉のもつ意味や重さを考えた人は多かったのではないかと思います。

2人目は、スノーボードの岩渕選手です。彼女は、勝負の3回目に男子並の超大技に挑戦することを選択しました。しかし、おしくも尻をついて4位となりました。その後、先に終えた他国の選手たちが次々と駆け寄ってきて抱き合い、彼女の挑戦を称賛する感動的なシーンが画面いっぱいに広がりました。今大会を振り返ったバツハ会長は、印象に残った1つのシーンとしてこの岩渕選手のチャレンジ精神と国籍を超えたアスリートたちの友情を挙げています。

この2人の挑戦とその結果について、わたしは今回深く考えさせられました。2人の選択したことは、きっと記録には残らなくても、多くの人の記憶に残ったはずです。「結果が全てなのか、それとも結果に至る過程が大切なのか」これは人の行動を評価する際の永遠のテーマです。

2つの表彰を受けて

先日、「花づくり・花いっぱい運動」優秀賞の表彰がありました。また、県の「いきいき教育活動表彰」受賞も決まりました。本当に、表彰を受けることは**名誉なこと**です。しかし、もし表彰されなかったとしても、花づくりや保護活動にこつこつと取り組んでいる日々の「過程」は**自慢**です。そして、何より「いつも子どもたちが朝早くから頑張っていますね。」の皆さんからの一言は**励み**です。住用小学校は、多くの方々に支えられながら、これからもいろいろなことに挑戦し続けていきます。

未来を生きる子供に 夢と希望を… ～1年間の取組～



住用小は、学力の向上を目指すとともに、未来を見据えた、限りある自然との共生の在り方について主体的に考えて行動できる子どもの育成を図っています。そのために、豊かな表現力が身に付けられるよう、子どもたちが光輝くステージを準備しています。

学力の向上

※数値：本校/県

- 6年全国学力・学習状況調査
(国：83.3/67.3 算：81.3/73.2)
- 5年鹿児島学習定着度調査
(国：74.5/72.3 社：85.2/80
算：72.5/70.6 理：75.2/73.2)
- 地区指定研究公開(社会科 62名参加)



住用小の子どもたちの学力はたいへん高く、目標をもって努力することができました。来年も、もっといい自分を目指して頑張ってください。【写真：授業に熱心に取り組む子供】

職員の資質の向上

- 校内研修の充実(一人年2～3回研究授業実施)
- 大島地区教育実践記録 学校賞



担任の先生方は、教育委員会の先生方に何回も授業を見てもらい指導をいただきました。子どもたちに力を付けたいと思って先生たちも頑張りました。【写真：担任の先生が研修を積む様子】

人権教育の推進

- 人権の花運動(ひまわりの栽培)
- 生徒指導に関する研修
(いじめハンドブックの活用※奄美市作成)
- 特別支援教育等に関する研修



講師の先生を招いて、人権に関する学習を行いました。また、いじめをなくすために、先生方も、人権について勉強をしました。【写真：人権の花ひまわりを囲む子供】

緑化活動の推進

- 朝のボランティア活動
- 「花づくり・花いっぱいコンクール」優秀賞
- しいたけ栽培開始(大島支庁との連携)
- 地域への苗の配布(各区、公民館)
- 支所へプランター贈呈(入口設置)



住用小と言えば、「花がいっぱいの学校」で有名です。花を育てることを通して、命を繋ぐ大切さや尊さを学ぶことができました。【写真：朝早くから花植の準備をする子供】

リュウキュウアユ保護活動

- 「第75回愛鳥週間2021年度野生生物保護功労者表彰」文部科学大臣賞
- 県いきいき教育活動表彰受賞 ○観察学習、産卵地整地作業、FMラジオ全員出演、飼育活動
- 県主催世界自然遺産登録記念式典代表発表 ○新聞や全国誌に多数掲載(全国誌4社)



環境悪化が進んでいる今、自然と人との共生は、現実の問題となって迫っています。そのため、絶滅危惧種を守るこの取組には、全国が大きな関心をもっています。今年は、ラジオでの発表等で、取組への思いや考えを堂々と伝えることができました。【写真左：文部科学大臣賞受賞式 右：世界自然遺産登録記念式典発表の様子】

学校行事の充実

- 校内相撲、持久走大会 ○幼小中合同運動会、学習発表会 ○長野県小川小学校との交流
- 避難訓練(火災、地震、津波) ※名瀬測候所や消防署との連携 ○劇団四季動画視聴 等

令和4年度に向けて(地域の皆様、保護者の皆様ありがとうございました。来年度も住用小学校をよろしくお願ひします。)

- 子どもの未来を見据えた学力の保障(県教育センターとの連携、校内研修の充実)
- 子どもの人数確保に向けた取組(在校児童が楽しめる環境づくり、留学制度の活用)
- 特色ある教育活動などこれまでの活動の継続と学びの機会の充実
(外部機関の活用、子どもが活躍できる場の確保、島唄や三味線に親しむ機会の設定)
- 施設の老朽化への対応 ○体力の向上に向けた取組

<3月の行事予定>

- 2日(水) 授業参観、学級PTA等
- 4日(金) お別れ遠足
- 24日(木) 卒業式
- 25日(金) 修了式、辞任式
- ※ 4月6日(水) 入学式、始業式

